

資料 1

令和4(2022)年度「みよしの教育に関するアンケート」からみる、
みよし市教育振興基本計画～みよし教育プラン～の進捗状況～

令和5(2023)年1月
みよし市教育委員会

I 「みよし市の教育に関するアンケート」

(1) 本アンケートの概要

平成28年3月に策定された、「みよし市教育振興基本計画～みよし教育プラン～」は、基本理念「学ぶ楽しさで、人と人をつなぐ」のもと、生涯にわたって自らを磨き続け、仲間と共に「ふるさとみよし」を築き、より良い次代を創りだす人を育てることを目的としています。令和2年(2020)年度に中間見直しを行い、令和3(2021)年度より「みよし市教育振興基本計画【改訂版】」を策定し、引き続き教育施策に取り組んでおります。

その実現のために、本プランでは2年に一度、教育に関する市民アンケートを実施し、重点施策である「20の作戦」を中心にその進捗状況を把握し、常にプランに改善を加えることで実効性のある生きた計画とすることを目指しています。

本アンケートは、令和3(2021)年度より「みよし市教育振興基本計画【改訂版】」策定に先駆けて行われた平成29年度、令和元年度のアンケートに続くアンケートとなります。基本的には、前回までのアンケートからの推移を追うことで計画の進捗状況を把握することとしています。

(2) 調査の対象と方法

調査名	対象者	母集団数	配布数	回収率
(1)市民調査	20歳以上の市民	約 45,000	1,000	40.5%
(2)小学生調査	市内の小学5年生	約 600	約 600	約 90.0%
(3)中学生調査	市内の中学2年生	約 640	約 640	約 90.0%
(4)保護者調査	(2)(3)の対象者の保護者	約 1,240	約 1,240	約 50.2%
(5)教員調査	市内の小中学校の教員	約 350	約 350	約 64.0%
合 計			約 3,880	

(3) 調査期間

令和4(2022)年12月15日(木)から令和5(2023)年1月13日(金)

※ 市民については、12月9日(金)から1月11日(水)

(4) 配布・回収方法

- ・(市民調査)無作為抽出。受け取った本人がオンラインで回答か、アンケート用紙で回答し、郵便にて返送。
- ・(保護者)全ての対象者に、学校を通じて配布。受け取った本人がオンラインで回答か、アンケート用紙で回答し、学校を通じて返送。
- ・(小学5年生と中学2年生・教員)全ての対象者が、オンラインで回答。

II アンケート結果の概要

1 学校教育の成果

中学生の満足度が増加傾向。小学生・保護者は減少。

2 学校教育に期待されていること

期待されているのは、基礎的な知識・技能/思いやりや優しさの心

3 現在の学校教育の課題

基礎的な学力の定着、個性を伸ばすことが求められている

4 日々の授業

友達と話し合う、観察や実験などの授業が好き

5 学校施設の安心・安全・快適

安心・安全・快適と感じる小中学生・教員の割合が増加

6 部活動

小中学生の満足度は増加/勝ち負けや賞よりも楽しくやりたい
小中学生が増加

7 小中連携

中1になることに不安感をもっている小学生が増加

8 学校給食

子どもの満足度は引き続き大変高い（約9割）

9 心の教育

自己肯定感、自己有用感を高める取組の充実を図りたい

- 10 学校教育と地域との連携
地域の教育力を活用することには肯定的であるが、具体的な連携について課題がある。
- 11 みよし市の教育全体の充実度
家庭教育、地域教育の高まりを実感する教員増加
- 12 生涯学習の推進
生涯学習への参加は全体的に増加。
※開催日・時間帯・方法の検討により、より魅力的になる
- 13 読書推進
サンライブの利用増加、本を読むことが好きな小学生減少
本を読む冊数は二極化進む
- 14 スポーツ推進
小中学生ともに週当たりの運動が減少傾向
- 15 教育に関する情報の周知
「学校以外に相談できる公的機関を知らない」が減少
- 16 ふるさと学習の推進Ⅰ・Ⅱ
少しずつ「ふるさとみよし」に関する周知が進んでいる
- 17 教員に対する研修・支援の推進
不登校、発達の問題、非行・暴力行為、外国人児童・生徒への専門的な支援を教員は必要としている
- 18 今後、本市が力を入れるべき教育課題等について
市民・保護者・教員に共通して「こんな子どもたちに育てたい」という思いがある

Ⅲ アンケート結果の分析

1 学校教育の成果

【重点施策との関連】

作戦5

楽しい授業

作戦8

心の教育

作戦11

個の良さを認

める教育

作戦13

地域とともに
ある学校づく
り

教師は、保護者や地域の期待に応えているか	保護者			教員		
	H29	R1	R4	H29	R1	R4
① 大変応えている	13%	18%	10%	20%	20%	19%
② どちらかといえば応えている	72%	69%	74%	71%	71%	70%
③ どちらかといえば応えていない	10%	7%	7%	3%	3%	4%
④ 応えていない	3%	3%	1%	0%	0%	0%
⑤ わからない	3%	3%	7%	6%	6%	7%

学校生活全体に対する満足度	小学生		中学生		保護者	
	R1	R4	R1	R4	R1	R4
① 大変満足している	35%	29%	22%	23%	18%	11%
② どちらかといえば満足している	50%	54%	55%	61%	69%	72%
③ どちらかといえば満足していない	7%	9%	10%	5%	7%	9%
④ 満足していない	2%	2%	5%	4%	3%	3%
⑤ わからない	7%	6%	9%	6%	3%	5%

【分析】

- 「教師は、保護者や地域の期待に応えているか」は、保護者の「大変応えている」が減少しており、学校の期待される役割を再確認し、教育活動を見つめなおす必要がある。
- 「学校生活全体に対する満足度」は、中学生で増加傾向にあるが、小学生・保護者においては、「大変満足している」が減少傾向にあり、学校教育活動全体を俯瞰的に見ていく必要がある。

2 学校教育に期待されていること

【重点施策との関連】

作戦5

楽しい授業

作戦8

心の教育

作戦11

個の良さを認

める教育

作戦13

地域とともに
ある学校づく
り

小中学校にどのような役割を期待して(されて)いるか	市民		保護者		教員	
	R1	R4	R1	R4	R1	R4
① 基礎的な知識や技能をしっかりと身につけさせること	65%	65%	63%	76%	92%	90%
② 自立心や自主性、たくましさを身につけること	57%	63%	52%	69%	73%	80%
③ 生きる指針や夢を与えること	36%	42%	19%	40%	47%	48%
④ 個性を伸ばすこと	40%	50%	18%	44%	50%	61%
⑤ 創造力、発想力を伸ばすこと	45%	50%	23%	42%	43%	48%
⑥ 思いやりや優しさなどの心を育てること	72%	77%	55%	72%	80%	87%
⑦ ルールや決まりを守ることを身につけさせること	62%	65%	40%	64%	81%	79%
⑧ 特に期待することはない	2%	3%	1%	1%	1%	0%
⑨ その他	4%	3%	1%	1%	2%	0%

【重点施策との関連】

作戦5

楽しい授業

作戦8

心の教育

作戦11

個の良さを認める教育

作戦13

地域とともにある学校づくり

児童・生徒の指導において、どのようなことが大切か(複数回答)	保護者		教員	
	R1	R4	R1	R4
① 学習規律、クラスの秩序をきちんとすること	39%	38%	75%	75%
② 興味をもてるような、楽しくわかりやすい授業をすること	71%	78%	88%	88%
③ 繰り返し学習などで、基礎・基本を身につけさせること	48%	53%	60%	62%
④ 学習方法に関する指導を充実させること	36%	40%	46%	40%
⑤ 調べ学習や体験的な学習を充実させること	57%	67%	64%	75%
⑥ 受験等への対応の指導を充実すること	14%	17%	12%	8%
⑦ 対話的な学習を充実すること	50%	56%	75%	81%
⑧ 個性を伸ばす指導を充実すること	32%	38%	49%	62%
⑨ 思いやりの心をもつなど、人として大切なことを教えること	67%	72%	80%	81%
⑩ その他	2%	1%	1%	0%

【分析】

- 保護者からは学習面だけでなく、心の教育の充実が強く求められている。教員も同様に、心の教育を大切に指導にあたっていることがわかる。方向性は一致しているので、継続したい。
- 保護者・教員ともに、楽しくわかりやすい授業を大切にしながら、しっかりと子どもに力を身に付けさせたいという思いが強い。
- 保護者・教員ともに、「調べ学習や体験的な学習を充実させる」ことを大切にしたい割合が増加しており、体験的な学習を通して、児童生徒に成長させていくことを大切にしたい。

3 現在の学校教育の課題

【重点施策との関連】

作戦5

楽しい授業

作戦8

心の教育

作戦11

個の良さを認める教育

作戦13

地域とともにある学校づくり

みよし市の学校教育の課題(複数回答)	市民		保護者	
	R1	R4	R1	R4
①子どもの基礎的な学力が低下している	19%	16%	39%	34%
②進学中心の教育にかたよっている	16%	15%	71%	10%
③子どもの創造性や個性を伸ばすことが難しい	26%	24%	48%	29%
④いじめ、学級崩壊などの問題行動や、不登校	17%		36%	
⑤いじめへの対応・対策が十分ではない		16%		12%
⑥不登校への対応・対策が十分ではない		15%		15%
⑦生活指導や問題行動への対応・対策が十分ではない		13%		18%
⑧道徳教育やこころの教育が十分でない	20%	16%	57%	10%
⑨電子黒板やタブレット端末など、ICT機器が整っていない。	10%		14%	
⑩情報モラル教育が十分でない		14%		14%
⑪施設・設備が十分整っていない	8%	10%	50%	14%
⑫学校と地域の連携が十分でない	8%	13%	32%	11%
⑬その他	15%	21%	2%	5%

【分析】

- 「進学中心の教育に偏っている」、「道徳の教育やこころの教育が十分でない」と感じている保護者の割合が激減している。道徳教育の充実を図っていることへの成果が伺える。
- 「子どもの基礎的学力が低下している」と回答する保護者は大きくは変化していない。教師は子どもたちが興味をもてるような楽しくわかりやすい授業を大切にしているが、基礎的な知識や技能の定着に結びついていない可能性がある。単に楽しい授業ではなく、教師も子どもたちも授業のねらいをきちんと理解して学びを進めたり、学習を振り返ったりすることが必要となる。
- 「施設・設備が十分整っていない」と感じる保護者の割合が大きく減少している。大規模改修の計画的な実行、ICT機器の早期の整備などが成果となって表れている。
- 保護者の自由記述では、「教員の質の低下」「教師と児童生徒の対話時間の確保」の意見がある。「タブレット活用の推進」とともに、「タブレット使用の規制」が意見としてある。児童生徒の成長を促し、信頼関係を構築するには対話は欠かすことができない。デジタルシチズンシップ教育の推進を検討していきたい。

4-1 日々の授業（授業全般）

【重点施策との関連】

作戦5

楽しい授業

作戦6

ICTを活用した教育

作戦7

外国語学習

どのような授業が好きか(複数回答)	小学生		中学生	
	R1	R4	R1	R4
① 学習のめあてや調べることを自分で決め、解決していく授業	16%	14%	9%	12%
② 教科書やプリントなどの教材を使って先生が黒板で教えてくれる授業	16%	21%	15%	28%
③ 観察や実験などの授業	45%	56%	38%	54%
④ 友達と話し合う授業	39%	52%	43%	64%
⑤ コンピュータやタブレット端末を使う授業	72%	63%	52%	45%
⑥ 考えたり調べたりしたことを発表する授業	16%	24%	8%	17%
⑦ 先生以外から話を聞いたり教えてもらう授業	10%	17%	5%	12%
⑧ 計算や漢字などの練習をする授業	17%	19%	11%	21%
⑨ 見学やインタビューなど学校の外での授業	39%	46%	19%	39%
コンピュータやタブレット端末を活用した授業が分かりやすい・楽しいか	R4 小学生		R4 中学生	
①とても感じる	54%		42%	
②どちらかといえば感じる	36%		46%	
③どちらかといえば感じない	7%		8%	
④感じない	3%		5%	

【分析】

- コンピュータやタブレット端末を活用した授業が分かりやすいという肯定的な意見をもった子どもが多い。一方で、観察や実験など、体験や作業をともなう授業や友達と話し合う授業が好きと回答する小中学生が多く、タブレット端末の活用場面の検討と合わせて、実体験を取り入れた授業を心がけたい。
- 友達と話し合う授業は、学習指導要領の「主体的対話的で深い学び」の実現のために、引き続き推奨していきたい。また、学び合いのある授業づくりを重ねてきた成果である。
- 見学やインタビューなどの学校の外での授業に魅力を感じている子どもが多く、学んだことや疑問に思ったことを、実際に確かめるなど、探究的な学習も取り入れていくことを考えたい。

4-2 日々の授業（情報教育）

【重点施策との関連】	コンピュータやタブレット端末・電子黒板などを使ってしたい学習(複)	小学生		中学生	
		R1	R4	R1	R4
作戦5	① インターネットなどを活用して、 調べ学習 を行う	55%	54%	51%	51%
楽しい授業	② 写真や動画 などを見て、より深く理解する	43%	49%	48%	53%
作戦6	③ プレゼンソフトを使って自分の意見をみんなにわかりやすく伝える	21%	28%	19%	20%
ICTを活用した教育	④ タブレットに書き込んだ意見を大画面に投影して考えを比較する	19%	28%	23%	21%
作戦7	⑤ インターネットなどを使って 他の国や地域の人と一緒に学ぶ	20%	32%	17%	23%
外国語学習	⑥ タブレット端末などで練習問題をたくさんやりしっかり理解する	29%	31%	27%	26%
	⑦ コンピュータやタブレット端末を使って プログラミング学習 を行う	53%	53%	—	—
	⑧ タブレット端末を使わない、今までの勉強の仕方のほうがよい	3%	7%	5%	6%
	⑨ 特にしたいことはない	8%	8%	10%	9%

【分析】

○タブレット端末を活用しての学習を経験し、調べ学習や写真・動画の閲覧、プログラミング学習への関心が高まり、有用性を実感していることが考えられる。

○インターネットを活用し、より多くの人々とのつながりを持ち、学習を進めていくことへの興味・関心が高まりつつあることが考えられる。

【重点施策との関連】	学校での情報教育について充実すべきこと(複)※	保護者		教員	
		R1	R4	R1	R4
作戦5	① タブレット端末を活用し、調べ学習や協働学習の拡充を図る	29%	43%	56%	43%
授業の充実	② ICT支援員の配置を増加し、すべての教科において情報機器の積極的な活用を推進する	13%	24%	44%	67%
作戦6	③ 小学校段階から情報機器に多く触れさせ、基本的な操作の確実な習得を図る	28%	33%	23%	25%
ICTを活用した教育	④ タブレット端末を利用し、基礎基本の学力の定着を図る	18%	25%	24%	27%
作戦7	⑤ ネット社会でのルールやマナーを学ぶ情報モラル教育の充実を図る	72%	73%	52%	64%
外国語学習	⑥ 論理的思考力を養うためのプログラミング学習の充実を図る	30%	39%	18%	21%
	⑦ その他	2%	2%	2%	2%
	⑧ 教員がICT機器の操作や活用方法を学ぶための研修会を充実させる	—	—	36%	42%

【分析】

○電子黒板・プロジェクター・タブレット端末が整備され、次の段階として授業で効果的な活用を図るため、ICT支援員の支援が必要になってくる。

○家庭や授業で、子どもたちのタブレットを活用した取組を目の当たりにし、保護者も教員も、情報モラル教育の充実の必要感が高まっている。教員よりも保護者の割合が高く、家庭でのタブレット端末の使用に関しての困り感が高まっていると考えられる。

○自由記述では、保護者から「タブレットばかりに頼らない学習も必要」「実際の体験を重視して欲しい」という意見が多い。一方で「家庭学習でも利用する」「ルールやマナーを学ばせてほしい」という意見も見られ、どのような使い方をするのか、どういった場面で使用するのかを検討していく必要がある。

4-3 日々の授業（外国語教育）

【重点施策との関連】	英語を将来どのようなことに活かしたいか(複)	29 小学生	R1 小学生	R4 小学生
	① 街で会う外国人に親切にする	45%	35%	↗ 42%
作戦5	② 英語を使って海外で仕事をする	19%	12%	↗ 18%
楽しい授業	③ 外国旅行をするときに英語で話す	45%	34%	↗ 40%
作戦6	④ 外国人の友達を作る	35%	29%	↗ 39%
ICTを活用	⑤ 英語の歌を聴いたり、本を読んだり、映画を見たりする	25%	26%	↗ 27%
した教育	⑥ イングリッシュキャンプに参加して、学んだ英語が通じるか試す	—	7%	↗ 9%
作戦7	⑦ 特に活かしたいことはない	17%	24%	↗ 26%
外国語学習	⑧ その他	0%	3%	3%

英語を将来どのようなことに活かしたいか(複)	29 中学生	R1 中学生	R4 中学生
① 街で会う外国人に親切にする	36%	25%	↗ 28%
② 英語を使って海外で仕事をする	17%	15%	↗ 21%
③ 外国旅行をするときに英語で話す	50%	40%	↗ 41%
④ 外国人の友達を作る	25%	20%	↗ 31%
⑤ 英語の歌を聴いたり、本を読んだり、映画を見たりする	40%	39%	↗ 48%
⑥ イングリッシュキャンプに参加して、学んだ英語が通じるか試す	—	5%	4%
⑦ 特に活かしたいことはない	22%	22%	↗ 25%
⑧ その他	2%	2%	↗ 3%

【分析】

- 小中ともに、どの項目の割合も増加傾向である。ALTを活用した外国語活動や外国語科の授業により、外国語を学習する楽しみが高まっていることが伺える。引き続き、興味関心が高まる授業づくりに努めたい。
- 一方で、「特に活かしたいことはない」と考える割合も増加傾向にあり、英語への苦手意識が芽生え始めていることも考えられる。日頃の授業において、苦手意識が芽生えないような工夫や配慮を共有し、実践できるようにする必要がある。
- R1より小学5・6年生を対象に、みよし市イングリッシュキャンプを開催している。今後、事業の周知、魅力の発信、効果の検証を行っていき、参加意欲へつなげたい。
- 自由記述では、小中学生に共通して「将来の生活に生かす」「日常生活に生かす」が多かった。英語を話すことへの興味関心の高まりが感じられる。海外で活躍するスポーツ選手なども多くなり、海外での仕事への関心も高まってきていると思われる。

【重点施策との関連】

作戦5
授業の充実

作戦6
ICTを活用した教育

作戦7
外国語学習

外国語教育について期待すること(複数回答)	保護者	
	R1	R4
① 英語の歌を歌ったり、本を読んだり、映画を観たりすることができるようになる	30%	32%
② 身に付けた英語で外国人と会話したり、友達を作ったりする	72%	73%
③ 将来、英語を使って海外で仕事ができるようになる	17%	20%
④ すべての授業に ALT が参加し、本物の英語にふれることができるようにする	29%	32%
⑤ 英語の授業をすべて英語で行うこと	15%	15%
⑥ 入試や資格取得のための対策となる授業を行うこと	24%	25%
⑦ イングリッシュキャンプへの参加対象年齢を広げるなど、学んだ英語を使う機会を増やすこと	21%	19%
⑧ その他(裏面 自由記入欄にお書きください)	2%	4%

小学校で担任が外国語の授業を進めるにあたっての課題(複数回答)	教員	
	R1	R4
① 英語を書くこと	27%	34%
② 英語を読むこと	38%	42%
③ 英語を用いて児童へ指示したり、説明したりすること	67%	68%
④ 1単位時間の授業構成を作成することや、教材の準備を行うこと	49%	55%
⑤ ALT との打ち合わせを行う時間がないこと	51%	65%
⑥ 英語が伝わらないことが理由で、授業中に ALT と連携できないこと	22%	36%
⑦ 小学校と中学校の連携ができていないこと	27%	32%
⑧ 授業で使う電子黒板や ICT カートが不足していること	21%	11%
⑨ ピクチャーカードやフラッシュカードなどの教材が不足していること	17%	11%
⑩ その他	4%	2%

【分析】

○保護者は外国人(ALT を含む)と会話する機会や授業に ALT が参加することを望んでいる。本市が行っている「すべての外国語の時間に ALT 又は外国語非常勤講師を T2 に配置する」施策は、保護者のニーズに 応えていると言える。

○一方で、教員の半数は ALT が授業に参加するにあたり、打ち合わせの時間が取れず困っている割合が増加している。ALT の配置は、打ち合わせの時間を含めた勤務時間を確保しているが、担任が打合せを行う時間がもてない現状である。WEBでの打合せの推奨を行っていきたい。

○担任は、英語での指示や説明に課題を感じている。ALT が放課後や長期休暇中での教員研修での積極的な活用を促したい。

○自由記述では、保護者から「外国語嫌いにならず、楽しむこと」との意見があった。また、「小中の連携」を望む意見も多く、小学校の取組からの、スムーズな移行が求められている。小中連携が課題であると回答している教員の割合も高まってきており、スムーズに移行ができるような情報共有、授業改善などが必要である。

5 学校施設の安心・安全・快適

【重点施策との関連】

作戦 12

安心・安全・
快適な学校

学校の安心・安全・快適	小学生			中学生			教員		
	H29	R1	R4	H29	R1	R4	H29	R1	R4
① とても安心・安全・快適である	36%	37%	35%	28%	33%	31%	18%	21%	17%
② どちらかといえば安心・安全・快適である	48%	51%	55%	53%	51%	59%	54%	53%	58%
③ あまり安心・安全・快適でない	14%	9%	8%	14%	12%	8%	23%	23%	21%
④ 安心・安全・快適でない	2%	3%	2%	5%	5%	2%	4%	4%	4%

【分析】

- 「とても安心」「どちらかといえば安心」の割合が小中学生・教員ともに年々増えている。
- 計画的に、大規模改修を行っている成果が、子どもにも教員の肯定的な意見につながっていると思われる。
- 教員の「あまり安心ではない」の割合は若干減少したが、具体的にどんな部分で不安を感じているのかを把握し、今後の改修などに生かしていくことが必要となる。

6 部活動

【重点施策との関連】

作戦 9

健康な体づく
り

作戦 20

地域から学ぶ
学校づくり

学校の部活動に対する満足度	小学生			中学生		
	H29	R1	R4	H29	R1	R4
①大変満足している	47%	41%	41%	33%	29%	36%
②どちらかといえば満足している	32%	33%	32%	34%	34%	37%
③どちらかといえば満足していない	7%	8%	8%	13%	12%	6%
④満足していない	4%	5%	2%	10%	10%	2%
⑤どちらともいえない	10%	13%	6%	10%	14%	8%
⑥部活動をしていないので、分からない	—	—	11%	—	—	10%

部活動に対する思い(複数回答)	小学生			中学生		
	H29	R1	R4	H29	R1	R4
①もっと練習をして強くなりたい・上手になりたい	56%	47%	52%	62%	54%	56%
②勝ち負けや賞よりも、楽しくやる	49%	46%	53%	31%	32%	46%
③専門的な技能をもった地域の人にも教えてほしい	12%	8%	6%	24%	19%	12%
④もう少し休みがあって、他のこともできるとよい	15%	13%	13%	21%	20%	12%
⑤部活動の種類を増やしてほしい	45%	46%	—	26%	20%	—
⑥部活動をしていない	7%	10%	11%	4%	8%	11%
⑦その他	4%	2%	6%	6%	6%	9%

【重点施策との関連】

作戦9

健康な体づくり

作戦20

地域の教育力を学校づくりに

部活動に対する思い(複数回答)	保護者			教員		
	H29	R1	R4	H29	R1	R4
①たくさん練習をして強く・上手くさせたい	32%	27%	29%	23%	18%	11%
②勝ち負けよりも、楽しくやることを大切に	30%	26%	41%	28%	27%	29%
③遊んでしまうので、部活動に打ち込めるように	13%	14%	18%	18%	17%	11%
④専門的な技能をもった地域の人にも教えてほしい	32%	34%	40%	58%	58%	65%
⑤休みを増やし、部活動以外のことに使いたい	8%	4%	5%	33%	32%	29%
⑥選べる部活動が少ないので部活動数を増やす	48%	48%	—	16%	14%	—
⑦子どもが部活動をしていない(指導していない)	4%	5%	10%	12%	11%	6%
⑧その他	4%	7%	8%	6%	7%	7%

【分析】

- 中学生の満足度が増加している。朝練の廃止や土日の部活動の制限など、限られた時間の中で、適切・適度な活動量として進められていると考えられる。小学生の満足度は大きな変化はみられない。
- 満足度が得られる活動が行われている一方で、「もっと練習したい強くなりたい・上手くなりたい」という数値は増加傾向にある。同時に「勝ち負けや賞よりも、楽しくやりたい」という思いをもった小中学生の割合も増加しており、生涯スポーツとして、友達と体を動かすことへの楽しみを感じていることが伺える。
- 保護者・教員は「専門的な技能をもった地域の人」に部活動の指導をしてもらいたいという思いが年々高まってきている。一方で、小中学生の割合は、年々減少傾向にある。小中学生にとっては、信頼関係の築かれた教員や気心がしれた友達と体を動かすことを楽しみたいという思いが垣間見える。現状をとらえ、部活動の地域移行についてのあり方も検討していく必要がある。
- 自由記述には、小中学生から「部活動の時間を長くしてほしい」という意見も多い。「試合をしたい」「勝ちたい」と記述する小中学生もいる。部活動の地域移行とともに、ニーズに応じた活動量、活動内容としていくためには、地域と連携した部活動・社会体育の体制づくりが急務である。
- 保護者の自由記述には、「部活動の時間、選択肢を増やしてほしい」「外部指導者を入れる」等の意見が多い。また、「人間関係、達成感を学ぶ場であってほしい」という意見も多い。逆に、「部活動はなくてもよい」という記述もある。今後の部活動のあり方を、様々な視点から丁寧に進めていく必要がある。
- 教員の自由記述には、「部活動を地域に移行したい」「部活動をなくしたい」という記述が多いが、「仲間と協力したり、スポーツを楽しめる環境を確保したい」という意見もある。小中学生、保護者の思いを鑑み、どのように地域移行していくとよいのか、様々な視点から、早急に考えたい。

7 小中連携

【重点施策との関連】	中学校にあがることが不安(だった)か	小学生			中学生		
		H29	R1	R4	H29	R1	R4
【作戦10】 個別支援の充実	① とても不安(だった)	12%	18%	21%	21%	21%	26%
	② 少し不安(だった)	47%	45%	43%	44%	43%	44%
	③ あまり不安ではない(なかった)	29%	22%	22%	22%	21%	22%
	④ わからない・考えたことがない	12%	15%	14%	13%	15%	9%
【作戦11】 個の良さを認める教育	小学生のうちどのようなことがあれば、中学校に安心して通えるか(複数回答)	小学生			中学生		
		H29	R1	R4	H29	R1	R4
【作戦13】 地域とともにある学校づくり	① 中学校の授業を見たり受けたりする	49%	50%	49%	37%	34%	37%
	② 中学校の部活動や行事を見たり、参加したりする	52%	44%	41%	42%	32%	44%
	③ 中学校の先生から話を聞く	26%	22%	33%	15%	12%	17%
	④ 中学校の先輩から話を聞く	30%	21%	36%	23%	24%	32%
	⑤ 中学校生活についてのガイドブックを読む	26%	17%	23%	19%	18%	21%
	⑥ 中学校の先輩と一緒にあいさつ運動を行う	—	8%	12%	—	3%	10%
	⑦ 中学校の先輩から勉強(宿題)を覚えてもらう	—	24%	28%	—	10%	15%
	⑧ その他	2%	2%	2%	1%	3%	4%
	⑨ 特になし	14%	14%	21%	25%	27%	24%

【分析】

- 小中学生の「とても不安」の割合が年々増加であり、不安を感じながら中学校に入学している子どもが増えていく。コロナ禍以前に行ってきた小中連携を各地区で進めていく必要がある。
- 小学生にとっては、実際に授業や行事を見たり、先輩から話を聞いたりする中から、中学校を身近に感じ、先輩とのつながりをもつことが、中1ギャップ解消につながる事が考えられる。各中学校区で調整を行い、実施できるものから実施したい。
- 自由記述には、「事前に中学校の勉強をする」と回答した小学生や、「他小学校同学年との交流」と回答した中学生がいる。取組の参考にしたい。

8 学校給食

【重点施策との関連】	給食に対する満足度	小学生			中学生		
		H29	R1	R4	H29	R1	R4
【作戦9】 健康な体づくり	① 大変満足している	56%	50%	55%	50%	45%	45%
	② どちらかといえば満足している	33%	39%	36%	39%	42%	43%
	③ どちらかといえば満足していない	7%	8%	6%	8%	8%	8%
	④ 満足していない	4%	3%	4%	3%	4%	4%

【分析】

- 小学生の大変満足の割合が増加し、小中学生共に肯定群が9割近くと大変満足度が高い。「満足していない」の割合も非常に少ない。

9 心の教育

【重点施策との関連】 作戦 8 心の教育 作戦 20 地域の教育力を学校づくりに	(1)	小学生			中学生		
	人の気持ちがわかる人間になりたい	H29	R1	R4	H29	R1	R4
	① 当てはまる	69%	60%	54%	68%	70%	68%
	② だいたい当てはまる	24%	30%	37%	27%	26%	27%
	③ あまり当てはまらない	6%	8%	7%	4%	2%	3%
	④ 当てはまらない	2%	2%	2%	2%	2%	2%
	(2)	小学生			中学生		
	いじめはどんなことがあってもいけないと思う	H29	R1	R4	H29	R1	R4
	① 当てはまる	82%	85%	80%	72%	70%	74%
	② だいたい当てはまる	14%	12%	17%	23%	25%	19%
	③ あまり当てはまらない	3%	2%	3%	3%	4%	5%
	④ 当てはまらない	1%	1%	1%	2%	1%	2%
	(3)	小学生			中学生		
	人の役に立つ大人になりたいと思う	H29	R1	R4	H29	R1	R4
	① 当てはまる	76%	76%	60%	68%	67%	62%
	② だいたい当てはまる	19%	20%	30%	25%	26%	31%
	③ あまり当てはまらない	4%	3%	8%	4%	5%	4%
	④ 当てはまらない	2%	1%	3%	3%	2%	2%
	(4)	小学生			中学生		
	ボランティア活動に興味があるか	H29	R1	R4	H29	R1	R4
① 大変興味がある	14%	16%	13%	14%	11%	10%	
② どちらかといえば興味がある	44%	40%	45%	35%	38%	43%	
③ どちらかといえば興味がない	28%	29%	32%	32%	30%	35%	
④ 興味がない	13%	15%	11%	19%	20%	12%	

【分析】

- (1)(2)(3)の項目において、肯定群は小中ともにすべて90%以上となっている。道徳教育に力を入れた成果が出ていると考えられるので、継続して取り組む。
- 小中学生ともに、「人の役に立つ大人になりたいと思う」の割合が減少している。人の役に立つ経験が不足していることも考えれる。各小中学校では、自己肯定感を高める取組が行われているが、自己肯定感・自己有用感が高まるような取組を再考する必要がある。
- 「ボランティア活動に興味があるか」については、肯定群の大きな伸びは見られない。コロナ禍で、ボランティア体験ができないことが考えれる。ボランティアへの興味関心を高めるよう努めていきたい。

10 学校教育と地域との連携

【重点施策との関連】	地域の教育力活用に対する思い	市民		保護者		教員	
		R1	R4	R1	R4	R1	R4
作戦20 地域の教育 力を学校づ くり	①地域の教育力の活用になるので、積極的に進めるべきである	36%	37%	40%	39%	45%	47%
	②子どもによくない影響を与えない範囲であれば進めてもよい	57%	55%	54%	57%	50%	49%
	③子どもへの影響や地域の負担増が予想されるので、慎重に進めるべき	3%	3%	2%	1%	2%	1%
	④子供への影響や地域の負担増になるので進めないほうが良い	2%	0%	1%	1%	0%	0%
	⑤その他	2%	1%	2%	1%	2%	2%

協力したり参加したりすることのできる(してほしい)行事・活動(複数回答)	市民			保護者			教員		
	H29	R1	R4	H29	R1	R4	H29	R1	R4
①資源回収などへの協力	55%	56%	56%	68%	64%	67%	55%	57%	64%
②学校図書館の運営支援や読み聞かせ	12%	12%	13%	13%	12%	13%	39%	43%	49%
③授業補助や放課後指導の支援	12%	8%	9%	8%	9%	11%	17%	23%	32%
④非行防止や生徒指導への協力	5%	6%	6%	6%	5%	6%	38%	33%	42%
⑤ 部活動の指導や運営	8%	8%	7%	6%	9%	8%	29%	36%	56%
⑥ 校外学習への引率・学校行事への参加や協力	32%	29%	14%	69%	63%	27%	44%	43%	45%
⑦ 登下校など子どもの安全管理	23%	28%	25%	25%	25%	32%	72%	76%	89%
⑧ 清掃・花壇の手入れなど学校の環境整備	13%	13%	22%	17%	20%	32%	34%	41%	50%
⑨ 特に協力や参加できることはない	18%	17%	18%	6%	8%	10%	2%	2%	0%
⑩ その他	0%	2%	4%	0%	1%	2%	2%	1%	0%

【分析】

- 地域の教育力を学校教育に生かすことについては、市民・保護者・教員ともに90%以上が肯定的である。
- 学校図書館や部活動の運営・指導支援に対する教員の要望は年々高まっているが、協力できる保護者や地域の方はほとんどいない。定期的な参加、長時間の支援はボランティアではなかなか受けしてもらえないのが現状である。
- 「校外学習への引率・学校行事への協力ならできる」と回答した保護者が減少している一方で、「清掃・花壇の手入れなどの環境整備なら協力できる」と回答した保護者の割合が増加している。共働きの家庭が増えていることや、子どもと直接関わる部分での協力について抵抗を感じる保護者が増えていることが予想される。
- 教員からのニーズが最も高いのが「登下校の安全管理」である。協力いただける保護者も増加傾向にあり、協力いただける保護者に依頼していくことも検討していきたい。
- 「みよし型コミュニティスクール」の実現には、地域の教育力を活用した学校運営と、地域の方にも活躍してもらえる機会になるという双方にとってメリットがあることが必要となる。また、地域の方が参加しやすい仕組みや、互いのニーズの調査、マッチングの機会、マッチングの役割を担うコーディネータの存在が必要である。
- 自由記述には、市民は「働いている(高齢のため)ので難しい」、保護者は「仕事に影響のない範囲で協力したい」という意見がある。時間的にも、体力的にも協力を得られにくいのが現状であることが分かる。
- 保護者の自由記述には「事前に研修が必要」という意見もあり、協力していただける方がどういう方なのかという不安が垣間見える。教員は「必要感を感じない」「組織づくりは誰が担うのか」といった意見がある

11 みよし市の教育全体の充実度

【重点施策との関連】

作戦 PlusOne

作戦 1～20

全ての重点施策

みよし市で進めている重点施策について知っているか ※みよしっ子を共育・協育で育てることを重点施策として進めていることを知っているか			
	R4 市民	R4 保護者	R4 教員
① 知っている	20%	18%	60%
① 知らない	78%	82%	40%

本市のそれぞれの教育の充実度をどのように感じているか（「わからない」を除いた数で集計）									
(1) 学校教育	市民			保護者			教員		
	H29	R1	R4	H29	R1	R4	H29	R1	R4
①大変充実している	12%	11%	6%	9%	10%	7%	19%	19%	17%
②どちらかといえば充実している	73%	70%	76%	73%	74%	76%	78%	74%	76%
③どちらかといえば充実していない	12%	13%	15%	15%	13%	14%	2%	6%	6%
④充実していない	3%	5%	4%	3%	3%	3%	1%	1%	0%
(2) 家庭教育	市民			保護者			教員		
	H29	R1	R4	H29	R1	R4	H29	R1	R4
①大変充実している	4%	5%	7%	6%	7%	5%	3%	3%	3%
②どちらかといえば充実している	55%	59%	60%	58%	64%	63%	52%	56%	69%
③どちらかといえば充実していない	30%	30%	26%	29%	23%	26%	35%	32%	27%
④充実していない	11%	6%	7%	7%	6%	6%	10%	8%	2%
(3) 地域教育	市民			保護者			教員		
	H29	R1	R4	H29	R1	R4	H29	R1	R4
①大変充実している	4%	3%	4%	5%	6%	6%	5%	5%	4%
②どちらかといえば充実している	44%	52%	54%	49%	57%	59%	43%	59%	71%
③どちらかといえば充実していない	35%	30%	31%	33%	26%	27%	41%	31%	23%
④充実していない	17%	16%	12%	13%	10%	8%	10%	5%	2%

【分析】

- 「みよしっ子を共育・協育で育てることを重点施策として進めている」ことを知っている市民・保護者と教員に大きな差が見られる。「20の作戦PlusOne」により、継続的に周知を図っていく必要がある。
- 学校教育に対しては、前回調査から大きな変化は見られず、コロナ禍でも着実に学校教育を進めていることへの成果と考えられる。
- 家庭教育、地域教育については、教員の肯定群が増加しており、地域や家庭との連携を中心に、取組が進んでいることが予想される。今後も連携に力を入れていき、相互にとってより効果をためていきたい。

12 生涯学習の推進

【重点施策との関連】

作戦 14

サンライズでの生涯学習

作戦 15

市民発信の生涯学習活動

作戦 16

生涯スポーツの振興

作戦 17

みよしの歴史文化の発信

作戦 18

読書の推進

生涯学習	今年度 勉強・体験した(複)			今後 勉強・体験したい(複)		
	29 市民	R1 市民	R4 市民	29 市民	R1 市民	R4 市民
① 絵画・工芸・書道	10%	8%	8%	17%	15%	16%
② 音楽・舞踊・芸能	13%	11%	12%	12%	14%	13%
③ 文学・歴史・一般教養	11%	7%	12%	11%	10%	12%
④ 情報・コンピュータ	13%	7%	13%	19%	13%	23%
⑤ 語学	8%	6%	10%	19%	21%	22%
⑥ 料理	10%	12%	12%	15%	19%	21%
① 手工芸・娯楽・趣味	16%	14%	16%	17%	15%	21%
② スポーツ・軽い運動	40%	40%	36%	39%	39%	37%
③ 生活・健康	13%	13%	11%	23%	16%	22%
④ 教育・福祉	0%	9%	9%	0%	10%	13%

生涯学習をしたいと考えた時の課題（複数回答）	29 市民	R1 市民	R4 市民
① 時間の余裕がない	47%	47%	49%
② どのような講座や活動があるのかわからない	23%	21%	24%
③ 費用がかかりすぎる	18%	19%	25%
④ 希望する講座や活動がない	19%	16%	20%
⑤ 勉強・体験する場所が少ない(遠い)	23%	13%	18%
⑥ 手続きをすることが面倒である	11%	10%	13%
⑦ 一緒に勉強・体験する仲間がいない	11%	11%	12%
⑧ やってみたいが、経験がないので踏み切れない	24%	20%	20%
⑨ 家族などの理解・協力がいない	2%	1%	2%
⑩ その他	0%	5%	2%

【分析】

- 生涯学習への参加に関しては、全般的に増加傾向にある。コロナ禍により参加を迷っていた方が、受講を希望していることが考えられる。
- 「生涯学習をしたいと考えた時の課題」は、全体的に割合が増加傾向である。
- 「時間の余裕がない」「勉強・体験する場所が少ない(遠い)」の課題については、土曜日や日曜日の活用や実施場所の検討が、より必要になってくる。オンデマンドでの配信やオンラインでの実施などの方法も検討していくことも必要になってくる。
- 「参加したい」が特に増加している講座(+5%)については、市民の受講希望が高まっており、内容へのニーズを把握するとともに、課題とタイアップし、より魅力ある講座を検討していく必要がある。
- 自由記述には、「働いているので夜間や土日の講座があるとよい」「平日は参加できない」「オンライン講座と対面講座のハイブリッド型の講座がない」という意見がある。実施時間帯を含めた講座の充実を考えたい。

13 読書推進

【重点施策との関連】

作戦 14

サンライブで
の生涯学習

作戦 18

読書の推進

「サンライブ」に行ったか	市民		小学生		中学生	
	R1	R4	R1	R4	R1	R4
① 10回以上行った	22%	28%	36%	45%	35%	42%
② 5～10回程度行った	9%	8%	17%	14%	16%	14%
③ 数回程度行った	26%	24%	26%	24%	29%	31%
④ まだ行ったことがない	32%	27%	13%	9%	15%	5%
⑤ どこにあるか知らない	10%	11%	8%	9%	6%	7%
サンライブを利用する目的(行ったことがある人のみ)	R1	R4	R1	R4	R1	R4
① 図書館で本を借りる	35%	47%	61%	68%	41%	55%
② 図書館内や閲覧スペースで本を読む	23%	20%	27%	28%	18%	19%
③ 講座を受講する	9%	10%	2%	1%	2%	1%
④ 習い事に参加する	4%	5%	6%	6%	3%	5%
⑤ 展示やイベントに参加する	7%	7%	7%	10%	1%	5%
⑥ 趣味やサークルで施設を借りる	4%	6%	1%	—	3%	—
⑦ 自習スペース等で学習する	4%	3%	16%	13%	48%	46%
⑧ その他	2%	2%	5%	3%	3%	5%

本(新聞・ざっ誌・漫画をのぞく) を読むことが好きか	市民			小学生			中学生		
	H29	R1	R4	H29	R1	R4	H29	R1	R4
① 大変好き	25%	21%	23%	36%	47%	39%	36%	40%	46%
② どちらかといえば好き	43%	50%	46%	36%	33%	35%	37%	34%	26%
③ どちらかといえば好きではない	22%	19%	21%	16%	13%	16%	19%	17%	17%
④ 好きではない	9%	10%	8%	12%	8%	10%	8%	10%	11%
1か月に、本(新聞・ざっ誌・漫画をのぞく)を何冊ぐらい読むか	市民			小学生			中学生		
	H29	R1	R4	H29	R1	R4	H29	R1	R4
① 10冊以上	4%	5%	3%	19%	22%	25%	8%	11%	10%
② 9～5冊程度	4%	3%	4%	14%	14%	13%	9%	7%	5%
③ 4～3冊程度	12%	13%	12%	21%	20%	18%	19%	18%	14%
④ 1・2冊程度	25%	26%	28%	20%	17%	19%	38%	30%	28%
⑤ 1冊以下	21%	21%	20%	10%	7%	6%	16%	15%	18%
⑥ ほとんど読まない	33%	31%	31%	16%	19%	19%	10%	20%	25%

【分析】

- 「サンライブに行ったか」では、市民・小学生・中学生ともに、「10回以上」と回答した割合が大きく伸びている。また、本を借りることを目的にした来館が増えている。
- 中学生にとって、本を借りるとともに、自習スペースを利用できることに魅力がある。
- 「本を読むことが大変好き、どちらかといえば好き」と回答した小中学生の肯定群が減少傾向にあるが、中学生の「大好き」の割合が増加している。小学校から中学校へ進学し、日常的に朝の読書活動を行っているこ

とが、「大好き」の割合の増加につながっていることが考えられる。学校によっては、朝の読書を取りやめた学校もあるが、日常的な読書活動を大切にしていきたい。

○小学生では、1か月に「10冊以上」読んでいる割合が年々増加しており、図書館で本を借りる割合が増加していることも納得できる。また、市民が図書館で本を借りる割合も増加しているのも、小学生と一緒に来館した保護者が増加していることも考えられ、親子のふれあいの場として、さらに推し進めたい。

○「1か月に本をほとんど読まない」中学生の割合が年々増加している。また、19%の小学生がほとんど本を読んでおらず、二極化が進んでいる。中学生は、小学生に比べ、学習や部活動での時間が増える影響も考えられるが、スマートフォンの普及により、動画の視聴などによる影響があると考えられる。

14 スポーツ推進

【重点施策との関連】

作戦9
健康な体づくり

作戦16
生涯スポーツの振興

1年の間に、授業以外で運動やスポーツをどのくらい行ったか	市民			小学生			中学生		
	H29	R1	R4	H29	R1	R4	H29	R1	R4
① ほぼ毎日行った	9%	6%	8%	26%	20%	21%	23%	24%	24%
② 週に3～5日行った	13%	17%	16%	26%	27%	25%	39%	37%	28%
③ 週に1～2日行った	20%	22%	22%	27%	31%	30%	15%	18%	25%
④ 月に1～3日行った	19%	14%	16%	10%	7%	10%	7%	7%	9%
⑤ 月に1日未満行った	6%	9%	7%	3%	4%	5%	4%	3%	2%
⑥ ほとんど行っていない	32%	32%	29%	8%	12%	10%	12%	11%	12%
この1年の間に、直接スポーツの試合を観に行ったか	市民			小学生			中学生		
	H29	R1	R4	H29	R1	R4	H29	R1	R4
① 10回以上行った	5%	5%	4%	12%	10%	8%	10%	10%	10%
② 5～10回程度行った	5%	5%	5%	12%	12%	7%	10%	14%	11%
③ 数回程度行った	22%	25%	18%	29%	30%	23%	30%	29%	25%
④ ほとんど行っていない	68%	66%	72%	47%	47%	62%	50%	47%	54%

【分析】

○中学生で「週に3～5日行った」割合が減少し、「週に1～2日行った」割合が増加しており、コロナ禍での運動をする機会の減少や部活動の活動時間の減少が大きく影響していると考えられる。小学生ではゆるやかであるが、同様の傾向が伺える。運動をする機会の減少が、運動量の減少につながっていることは明らかであり、体力の低下につながっていないか、確認していく必要がある。放課後子ども教室、部活動の地域移行など、日常的に運動に親しむ機会の確保が課題となる。

15 教育に関する情報の周知

【重点施策との関連】	学校以外に相談できる公的機関を知っているか	29 保護者	R1 保護者	R4 保護者
	① 知っている	25%	34%	33%
	② あまり知らない	51%	47%	52%
	③ 知らない	24%	19%	14%
	学校の教育方針や子どもの様子などの情報を得られているか	29 保護者	R1 保護者	R4 保護者
	① 十分に得られている	25%	11%	11%
	② どちらかといえば得られている	51%	59%	57%
	③ あまり得られていない	24%	26%	28%
	④ ほとんど得られていない	0%	5%	4%
	市が提供している家庭教育に関する情報で利用したことがあるもの(複)	市民		保護者
	R1	R4	R1	R4
① 「家庭教育だより はぐみ」(広報みよし掲載)	43%	42%	41%	41%
② 「すこやか」(子育て支援センター発行)	12%	12%	16%	20%
③ ファミリーサポートセンター通信	7%	5%	13%	13%
④ 「みよびよ！」(子育て情報ナビ)	6%	4%	2%	6%
⑤ みよし市 HP「子育て・児童」のページ	9%	16%	17%	31%
⑥ どれも知らない	42%	43%	39%	30%

【分析】

- 学校以外の相談機関について案内チラシを年間4回小中学校で配付している。また、中学校卒業後の相談窓口の周知も行っている。「知らない」の割合が減少している要素となっていると考えられる。
- 学校の教育方針や様子などの情報があまり得られていない保護者の割合が年々増加傾向にある。各学校ともホームページに子どもたちの様子を掲載したり、学級通信を発行したりしているが、情報発信回数、内容、情報発信方法を見直していく必要がある。
- 平成 30 年度より広報みよしに、「家庭教育だより」を掲載し、家庭教育に関する情報を発信している。内容を吟味して、家庭教育に関する情報を発信していきたい。
- 「みよし市 HP「子育て・児童」のページ」を利用している保護者・市民の割合が増加しており、インターネットを通じての発信が有効であることが考えられるため、家庭教育に関する情報の周知を図る方法として活用していきたい。

16 ふるさと学習の推進 1

【重点施策との関連】	本市に関することがらとの関わり	小学生		中学生		市民		教員	
	(1)夏に三好池まつりを行っている	R1	R4	R1	R4	R1	R4	R1	R4
	①参加したことがある	46%	48%	59%	61%	53%	60%	36%	41%
	②知っているが、参加したことはない	37%	38%	35%	31%	45%	34%	58%	55%
	③知らない	16%	14%	6%	8%	2%	4%	6%	4%
	(2)夏に三好いいじゃんまつりを行っている	R1	R4	R1	R4	R1	R4	R1	R4
	①参加したことがある	61%	65%	70%	73%	56%	58%	51%	56%
	②知っているが、参加したことはない	30%	30%	28%	24%	40%	37%	46%	42%
	③知らない	8%	5%	2%	4%	3%	5%	3%	2%

【重点施策との関連】

作戦 17

みよしの歴史
文化の発信

作戦 19

ふるさと学習

本市に関することがらとの関わり	小学生		中学生		市民		教員	
	R1	R4	R1	R4	R1	R4	R1	R4
(3)夏に三好大提灯まつりを行っている	R1	R4	R1	R4	R1	R4	R1	R4
①参加したことがある	48%	40%	64%	61%	50%	55%	43%	46%
②知っているが、参加したことはない	37%	38%	30%	30%	45%	37%	53%	52%
③知らない	16%	21%	6%	10%	6%	7%	4%	3%
(4)カヌー競技を育成し、大会などを行っている	R1	R4	R1	R4	R1	R4	R1	R4
①参加したり・見たことがある	8%	4%	16%	9%	13%	13%	34%	27%
②知っているが、参加したり・見たことはない	54%	59%	65%	50%	75%	72%	62%	69%
③知らない	38%	36%	20%	41%	13%	14%	4%	4%
(5)「アートのみち」として市内に彫刻が飾られている	R1	R4	R1	R4	R1	R4	R1	R4
①参加したり・見たことがある	29%	37%	33%	26%	45%	46%	62%	61%
②知っているが、参加したり・見たことはない	20%	20%	24%	26%	31%	31%	26%	33%
③知らない	51%	43%	43%	49%	23%	22%	13%	7%
(6)柿・なし・ぶどうが特産である	R1	R4	R1	R4	R1	R4	R1	R4
①見たり・食べたりしたことがある	76%	84%	68%	67%	67%	69%	84%	90%
②知っているが、見たり・食べたりしたことはない	14%	13%	26%	26%	22%	20%	14%	9%
③知らない	10%	4%	6%	6%	11%	10%	2%	0%
(7)北海道士別市と長野県木曾町と友好提携している	R1	R4	R1	R4	R1	R4	R1	R4
①参加したり・見たりしたことがある	12%	5%	19%	7%	21%	17%	37%	41%
②知っているが、参加したり・見たりしたことはない	52%	55%	55%	54%	45%	44%	54%	50%
③知らない	36%	39%	26%	39%	34%	37%	8%	8%
(8)アメリカ・コロンバス市と友好提携している	R1	R4	R1	R4	R1	R4	R1	R4
①参加したり・見たりしたことがある	12%	2%	18%	12%	12%	9%	36%	40%
②知っているが、参加したり・見たりしたことはない	45%	56%	71%	77%	52%	50%	63%	58%
③知らない	42%	42%	10%	11%	36%	39%	1%	2%
(9)明治時代の文化財・石川家住宅を保存している	R1	R4	R1	R4	R1	R4	R1	R4
①参加したり・見たりしたことがある	35%	19%	15%	33%	17%	16%	40%	46%
②知っているが、参加したり・見たりしたことはない	24%	32%	27%	24%	57%	56%	47%	45%
③知らない	41%	49%	59%	42%	26%	26%	13%	9%
(10)かつては国内有数の陶器の産地であった	R1	R4	R1	R4	R1	R4	R1	R4
①参加したり・見たりしたことがある	16%	21%	13%	10%	9%	9%	36%	48%
②知っているが、参加したり・見たりしたことはない	23%	26%	24%	22%	23%	25%	44%	38%
③知らない	60%	53%	63%	68%	68%	66%	20%	15%

【分析】

- 「ふるさとみよし」の理解が進んだ部分に色を付けた。
- 特に周知が進んだのは、小学生(5)アートの街+8%、(6)柿・なし・ぶどう+6%、(10)陶器産地+7%、中学生(9)石川家+17%。
- 「士別市・木曾町と友好提携」は、小中ともに知らない割合が増えており、コロナ禍で交流が中止になったことが影響していることが考えられる。同様に、体験的な活動が制限され、小学生の石川家を知らない割合・中学生の陶器産地であったことを知らない割合が増加していることが考えられる。

16 ふるさと学習の推進 2

【重点施策との関連】	住んでいるまち「みよし」のことが好きか	小学生		中学生		保護者		市民		教員	
		R1	R4								
作戦 19 ふるさと学習	① 大変好き	51%	52%	28%	29%	18%	20%	24%	26%	23%	23%
	② どちらかといえば好き	43%	41%	57%	57%	70%	70%	67%	65%	67%	63%
	③ どちらかといえば好きではない	5%	5%	9%	9%	10%	7%	6%	5%	7%	10%
	④ 好きではない	2%	1%	6%	5%	2%	1%	3%	2%	3%	4%

【分析】

- R1と比較して大きな変化は見られない。肯定群は小学生・市民・保護者は90%以上、中学生・教員も85%以上となっている。
- 小学校での「副読本みよし」を活用した郷土学習や、中学校での地域と連携した取組など、郷土を愛する心を醸成する取組を継続していきたい。
- 教員の否定群が増加傾向にある。否定群が増える原因がどこにあるのかを検証していく必要がある。

17 教員に対する研修・支援の推進

【重点施策との関連】	校内・校外(市・県主催)での研修の実施により、どのような力が付いたと思うか(複数回答)	教員		
		H29	R1	R4
作戦 4 家庭への幅広い支援	① 子どもを学びの土台にのせる発問や深く考えさせる発問の工夫	27%	24%	58%
	② 子どもの思考の流れを予想する力	49%	49%	30%
	③ 単元を見通した構想を創り上げる力	43%	30%	35%
	④ ICTを活用し、学び合いを促す力	28%	24%	40%
	⑤ 児童・生徒を理解し、個別の支援に生かす力	31%	36%	34%
	⑥ 児童・生徒理解や支援方法を検討し、学級・学年経営に生かす力	27%	22%	31%
	⑦ 緊急時の対応に生かす力	35%	32%	12%
	⑧ その他	25%	21%	1%
作戦 5 授業の充実 作戦 6 ICTを活用した教育 作戦 7 外国語学習 作戦 8 心の教育 作戦 10 個別支援の充実	今後、希望する研修(複数回答)	29 教員	R1 教員	R4 教員
	① 学級経営に関する研修	27%	24%	32%
	② 教科指導 に関する研修	49%	49%	51%
	③ 道徳指導に関する研修	43%	30%	28%
	④ 生徒指導・生徒理解に関する研修	28%	24%	33%
	⑤ 情報教育(ICT) に関する研修	31%	36%	53%
	⑥ 外国語教育に関する研修	27%	22%	14%
	⑦ 特別支援教育 に関する研修	35%	32%	36%
	⑧ カウンセリングに関する研修	25%	21%	26%
	⑨ 特別活動や総合的な学習の指導に関する研修	13%	11%	17%

【分析】

○教員は、校内外の研修を通じて、「発問の工夫」や「ICTを活用した学び合いを促す力」「児童・生徒理解や支援方法を学級・学年経営に生かす力」に成果を感じる割合が大きく増加している。ニーズにあった研修が行われていることが考えられ、引き続きニーズにあった研修を行い、教育効果を高めたい。

○教員が望む研修として、「情報教育(ICT)に関する研修」が最も高い。一人一台端末が導入され、ICTの活用が進むにつれ、より効果的な使用方法や操作方法、情報モラル教育等への関心が高まっていることのためであると考えられる。今後は、デジタルシチズンシップ教育を進めていく必要がある。また、「教科に関する研修」「特別支援教育に関する研修」のニーズも多く、より専門的な知見や実践力を身に付けられる研修を計画していく必要がある。

○自由記述欄には、校内研修回数が多く、負担軽減を望む意見が多かった。各種研修との重複を避け、効率よく充実した研修となるよう、さらなる工夫・改善が必要である。

【重点施策との関連】

作戦4
家庭への幅広い支援

作戦8
心の教育

作戦10
個別支援の充実

市教育委員会に望む専門的な支援 (複数回答)	教員		保護者		市民	
	R1	R4	R1	R4	R1	R4
①不登校・引きこもりに対する専門的な支援	63%	75%	35%	39%	40%	41%
②発達の問題、特別支援教育に対する専門的な支援	62%	78%	31%	34%	33%	38%
③非行・暴力行為に対する専門的な支援	18%	35%	14%	19%	25%	28%
④いじめ問題に対する専門的な支援	32%	43%	49%	47%	57%	49%
⑤学校現場で発生する様々なトラブルや複雑化した問題の法的解決に対する専門的な支援	56%	57%	34%	39%	35%	40%
⑥外国人児童・生徒やその家族に対する専門的な支援	57%	59%	13%	14%	20%	28%
⑦育児放棄や虐待など家庭教育に対する専門的な支援	37%	44%	17%	19%	30%	35%
⑧ 教職員間での人間関係やハラスメント等について相談できる窓口	18%	21%	—	—	—	—
⑨教職員の勤務状況について相談できる窓口	29%	33%	—	—	—	—

【分析】

○「市教育委員会に望む専門的な支援」の教員の回答から、どの支援についても必要感が高まってきている。特に、「不登校・引きこもり」「発達の問題」など、個別への対応への支援が早急に必要であることが伺える。また、「非行・暴力行為」への支援を求める教員の割合が増していることから、対処的な支援・防止を目的とした支援の双方の支援を検討しておきたい。

○法的解決の相談ができるスクールロイヤーの配置や増加傾向にある外国人児童生徒やその保護者への支援などは、引き続き必要性を感じており、継続的に支援をする必要がある。

○保護者・市民は「いじめ問題」が最も支援を要していると感じている。学校は、いじめ防止基本方針に従って組織として対応していることを保護者・市民に伝わるような努力をしていく必要がある。

○保護者の自由記述からは、ヤングケアラーへの支援、学習支援を望む声がある。市民の自由記述欄からは、発達障害や医療的ケア、特別支援の充実を求める意見がある。実態に合わせた児童生徒一人一人への効果的な支援方法を検討していく必要がある。

【重点施策との関連】	小学校における教科担任制について	保護者		教員	
		R1	R4	R1	R4
作戦5	①すべての学年・教科で進めるべき	13%	15%	14%	16%
楽しい授業	②高学年のすべての教科で進めるべき	25%	32%	23%	27%
作戦6	③すべての学年の技能教科で進めるべき	8%	7%	18%	17%
ICTを活用した教育	④高学年の技能教科で進めるべき	21%	19%	19%	14%
作戦7	⑤各学年の担任間で授業を交換する形で可能な教科について進めるべき	25%	20%	21%	21%
外国語学習	⑥教科担任制は進めるべきでない	6%	3%	3%	3%
作戦8	⑦その他	2%	3%	3%	3%
心の教育	小学校における教科担任制を進める上での課題について			教員	
作戦10	①一週間当たりの教科の授業時間数が合わず、実施する教科の組合せが難しい				71%
個別支援の充実	②担任の専門性を生かそうとすると、毎年実施する学年・教科が変わる可能性がある				55%
作戦11	③児童理解や情報交換に時間がかかる				38%
個の良さを認める教育	④児童の変化に気付きにくい				28%
	⑤行事等による柔軟な時間割が組めないことが想定され、学校運営に支障がでる				41%
	⑥その他				3%

【分析】

○小学校での教科担任制については、保護者・教員ともに、「高学年のすべての教科で進めるべき」の割合が一番高い。課題として、「実施する教科の組合せが難しい」「毎年、実施する学年・教科が変わる可能性がある」の回答が多いが、今後国の施策として、段階的に教科担任制専科教員へと移行していくことを考え、実施できる方法を検討し、実施していく必要がある。

○自由記述からは、保護者・教員ともに、児童の状況や実施教科等を十分に考慮し、高学年で実施をしていく意見が多い。

18 今後、本市が力を入れるべき教育課題等について

【重点施策との関連】	今後、子どもたちがどのような力を身につけていくとよいか(複)	市民		保護者		教員	
		R1	R4	R1	R4	R1	R4
後期計画における、新たな重点施策に向けて	① 逆境や困難に直面したときに、柔軟に適應できる力	65%	65%	68%	73%	76%	80%
	② 感情をコントロールする力	45%	49%	46%	55%	63%	72%
	③ 自分を客観的に見て成長していると認識できる力	26%	27%	21%	36%	37%	50%
	④ 何事にも挑戦しようと一歩踏み出す力	62%	62%	64%	69%	68%	70%
	⑤ 粘り強く考えたり、行動し続けたりする力	52%	55%	53%	61%	65%	74%
	⑥ 創造力や批判的思考力	26%	27%	19%	27%	31%	41%
	⑦ 仲間と協働して物事を成し遂げる力	54%	56%	53%	57%	57%	67%
	⑧ 自己肯定感、自己有用感	33%	42%	39%	55%	60%	70%
	⑨ 様々な情報を適切に活用する力	—	33%	—	30%	—	40%
	⑩ その他	2%	2%	1%	1%	1%	1%

【分析】

○「子どもたちが身に付けていくとよい力」に関して、前回アンケート時から継続して、①④⑤⑦については市民・保護者・教員ともに「こんな子どもたちに育てたい」という共通の強い思いがあることが読み取れる。

○「感情をコントロールする力」の教員の割合が高まっており、非行や暴力行為などが懸念される。また、「自己肯定感、自己有用感」の教員の割合が高まっており、コロナ禍で制限された体験活動や取組を通して、自己有用感を高め、子どもたちを成長させたいという考えが伺える。保護者や地域とも情報共有し、同じ方向を向いた取組を進めていき、効果を高めたい。

○市民の自由記述には、「世界を広い視野でとらえ、生き抜く力(コミュニケーション力を含む)」という意見がある。様々な視点や考えを学ぶことは、各校の教育活動を中心に行われており、継続的に進めていきたい。

○保護者の自由記述には、「自分で考え行動する力、判断する力、探究する力」「自分の感情をコントロールする力」の意見がある。教育活動全般を通して、培っていくことが必要となってくる。

【重点施策との関連】

後期計画における、新たな重点施策に向けて

本市がどのような教育に力を入れるべきであると考えますか(複数回答)	市民		保護者		教員	
	R1	R4	R1	R4	R1	R4
①小学校入学前の幼児に対する保育と教育の充実	23%	24%	12%	15%	27%	30%
② 幼児から小中学生まですべての子どもたちに対する心の教育の充実	54%	53%	47%	50%	54%	60%
③ 障がいをもつ等の理由により個別の支援が必要な子どもたちに対する教育の充実	30%	36%	25%	27%	51%	59%
④ 小中学生に対する、新たな時代に対応するための ICT 機器を活用した教育・情報モラル教育の充実	32%	47%	37%	49%	33%	44%
⑤小中学校における、基礎的・基本的な教育の充実	51%	46%	55%	55%	52%	58%
⑥働いている世代に対する生涯学習の充実	24%	29%	13%	20%	17%	23%
⑦高齢者に対する生涯学習の充実	29%	29%	12%	16%	15%	17%
⑧全ての基礎となる家庭教育の充実	29%	29%	20%	21%	59%	50%
⑨地域の人々の力を結集する地域教育の充実	18%	20%	10%	14%	22%	26%
⑩その他	4%	6%	3%	2%	4%	1%

【分析】

○「子どもたちが身につけていくとよい力」と「本市が力を入れるべき教育課題」をタイアップさせて見てみると、「心の教育の充実」を進めていく必要がある。

○「個別の支援が必要な子どもたちに対する教育」「ICT 機器を活用した教育・情報モラル教育」について、「17 教員に対する研修の推進」から充実を望む声が多いように、障がいがある子どもだけでなく、不登校や引きこもりの児童生徒、外国人児童生徒等、個に応じた対応は今後ますます重要となっていくと予想される。

○「基礎的・基本的な教育」は、学習面の基礎的な力とともに、規則正しい生活、あいさつ、礼儀など、当たり前のことを当たり前に行える子どもたちを育てたいという保護者・教員の共通の思いは変わらない。

○教員は「家庭教育の充実」を望む割合が減少している。「11 みよし市の教育全体の充実度」では、家庭教育の充実度の肯定群が増加していることから、情報を共有しながら、子どもたちを育てようとする環境が整ってきていることが理解できる。

○自由記述からは、市民から性教育を望む声、保護者から性の多様性への対応を望む声がある。LGBTQに関する認識の周知を検討していくことも考えたい。

IV 自由記述欄のまとめ（2名以上から意見のあったもの）

小学生 自由記入欄		
問4	学校生活で楽しみに感じていること	
	休み時間	14
	クラブ活動	7
	レクリエーション	4
	席替え	2
問7	部活動に対するご意見	
	部活動の時間を増やしてほしい	10
	試合（練習試合・交流試合を含む）をたくさんしたい	8
	みんなで相談しながら、楽しく活動し、チームワークを高めたい	7
問9	安心して中学校にあがるためにあるとよいこと	
	事前に中学校の勉強をする	4
問12	英語を勉強して今後どのようにしたいか	
	高校・大学生時の夢（ホームステイや留学）	4
	将来の仕事に生かしたい	2
	日常生活での英語の上達	2
問14	ICT機器を利用してどのような勉強がしたいか	
	オンデマンド動画（学習・講座）で勉強をしたい	3
	タイピング	2

中学生 自由記入欄		
問4	学校生活で楽しみに感じていること	
	クラス内（放課・おしゃべり）	3
	実行委員会	3
	休み時間	2
	掃除	2
問7	部活動に対する思い	
	部活動の時間長くしてほしい・回数を増やしてほしい	10
	勝ちたい	7
	楽しく部活動をしたい	5
	試合がしたい	3
	土日の部活動の朝の開始時刻が早い	2
問9	安心して中学校にあがるためにあるとよいこと	
	同年他小学校との交流	8
	中学校の見学をもっと行う	6

問13	将来の職業を考えるためにあるとよいこと	
	将来について考える機会を多く作る(職場体験)	4
	どの職業が適しているか調べる	4
	将来について級友と話し合う機会を多くつくる	2
問15	ICT機器を利用してどのような勉強がしたいか	
	プレゼンや課題の作成	2
	ICT機器を使わず、プリントやノートを使った学習の方がよい	2
問16	英語をどう生かしたいか	
	日常生活にいかす(海外でスポーツ・洋楽歌手のライブなど)	3
	将来の仕事にいかす	9
	外国の人と話せるようになりたい	2

保護者 自由記入欄

問8	小中学校に期待する役割	
	友だちと集団でできることの楽しさの体験	3
問11	学校教育の課題	
	教員の質の低下 教師と児童生徒の対話時間の確保(信頼関係)	5
	学力差への対応(基礎的な学力を中心に)	2
	校則の柔軟さ	2
	自宅でのタブレット活用の推進(予習・復習・オンライン授業など)	3
	タブレット使用の規制(危険性を学ぶ、ゲーム性が強い不必要なアプリの削除)	2
問12	情報教育で充実すべきこと	
	タブレットに振り回されない学習も必要(実体験、手で書くことなど)	6
	タブレットの活用場面の精査	2
	オンライン学習での活用	2
	情報モラル教育	2
問13	外国語教育に期待すること	
	外国語を嫌いにならず、楽しむこと	7
	小中の連携(進学と同時に難しくなる、英語嫌いが増えるなど)	4
	異文化を知り、英語を使う機会をもつ	3
問14	部活動に対する思い	
	部活動の選択肢を増やしてほしい	8
	練習時間が短い、部活動の時間を増やしてほしい	8
	部活動はなくてよい(小学校段階を含む)	5
	外部指導者を入れるべき	4
	人間関係・達成感を学ぶ場であってほしい(挑戦すること、努力すること、チームワーク等)	8
問15	キャリア教育	
	どのような職業があるのかを知る(資格、そのための進路)	2
	授業がどのように役立つのかを知る	2
	日頃の授業を大切にする	2

問16	地域の教育力活用	
	地域の方が学校に入るときには事前の研修が必要	4
	地域や父兄に協力	2
問17	参加・協力できる行事や活動	
	仕事に影響のない範囲でできる事があれば参加したい	4
	参加は難しい（仕事のため、外部委託をする）	5
問22	家庭教育で大切にしていること	
	家族での会話、家族で過ごす時間を大切にする	2
	自己肯定感を高める（個性の尊重）	2
	基本的な生活習慣（あいさつなど）	2
	自分で考え行動すること	2
問23	教育委員会による先生への専門的支援	
	ヤングケアラーへの支援	2
	学習サポート支援	2
問25	小学校の教科担任制について	
	子どもと先生の状況をみながら、高学年、中学年と段階的に試行してみる	8
	高学年で教科担任制を進めてもよい	2
	教科担任制に合わない児童生徒への対応を準備	2
問26	どのような力を身につけていくとよいか	
	自分で考え行動する力、判断する力、探究する力	3
	自分の感情をコントロールできる力	2
問27	どのような教育に力を入れるべきか	
	性の多様性への対応	2
	子ども目線の学校教育（部活動の在り方）	2

市民 自由記入欄

問9	本市の学校教育の問題点	
	発達障害への支援	3
	保護者への対応	2
	部活動の実施時間の減少	2
問12	地域の教育力活用	
	無理せず、協力できる人が参加する	2
問13	参加・協力できる行事や活動	
	協力したいが、働いている（高齢のため）ので難しい	4
	教員の事務的な補助	2
問17	生涯学習をするときの問題点	
	興味がない	4
	働いているので夜間や土日の講座があるとよい	3
	平日の講座が多く、参加できない	3
	オンライン講座と対面講座のハイブリッド型の講座がない	2

問26	学校や家庭への専門的な支援	
	発達障害、特別支援、医療的ケア	4
	ギフテッド教育	2
	児童生徒や保護者の心の支援（相談員など）	2
問27	子どもたちがどのような力を身に付けていくとよいか	
	世界を広い視野でとらえ、生き抜く力（コミュニケーション力を含む）	2
問28	どのような教育に力を入れるべきか	
	性の教育	3
	児童生徒の発達障害への支援	2
	少子高齢化に対応した教育（高齢者の活用、介護など）	2

教員 自由記入欄

問9	部活動について	
	部活動を地域に移行したい	7
	部活動をなくしたい	4
	部活動を通して仲間と協力したり、スポーツを楽しめたりする環境を確保したい	4
問11	地域の教育力活用	
	学校が担う業務とは思わない、必要感を感じない	2
	組織作りはだれが担うのか、準備が大変そう	2
問21	小学校の教科担任制について	
	教科担任制を進めるべき（高学年、できるだけ多くの教科など）	3
	人材不足が解消でき、教員数が確保できるならぜひ進めてほしい（デメリットも考慮して）	2